

幼小中

一貫教育推進だより

114

令和3年度全国学力・学習状況調査から 明日香村教育の課題と対応<学力面>

全国学力・学習状況調査は、令和2年度新型コロナ感染拡大のため中止に、令和3年度再開となり4月下旬に実施されました。

今年度の小学校6年生・中学校3年生の調査結果を、児童・生徒質問紙によるアンケート結果と合わせて、一貫教育の取組との関連性にも触れながら報告します。

なお、今回の調査で注目された新型コロナの影響については、全国的な傾向と同様に、明日香村においても大きな影響はなかったと言えます。



シリーズ

I 調査の結果

1. 明日香小学校（6年生）

(1) 学力の実態

■平均正答率から (%)

	国 語			算 数		
	全体	読むこと	書くこと	全体	数と計算	図形
明日香小6年	60.7	45.0	73.9	68.1	55.4	60.4
奈良県(公立)	61.4	45.0	76.5	69.3	60.9	57.5
全国(公立)	64.7	47.2	77.8	70.2	63.1	57.9

○国語(全体)：県の平均正答率とほぼ同程度ですが、全国と比べ4ポイント下回っています。

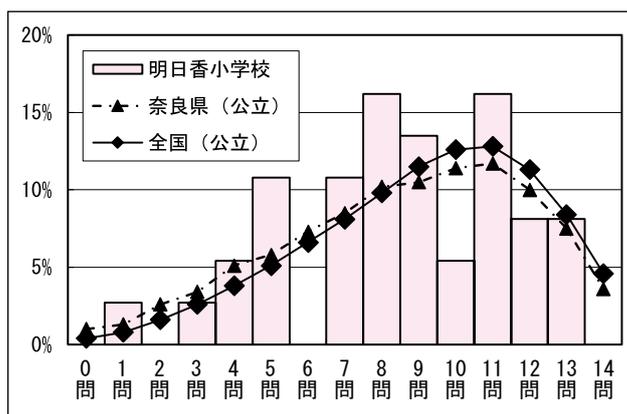
○国語(領域)：「読むこと」も全国より2ポイント、「書くこと」では全国より4ポイント下回り、大きな課題がみられます。

○算数(全体)：県の平均正答率より1ポイント、全国より2ポイント下回っています。

○算数(領域)：「数と計算」で県の平均正答率より5ポイント、全国より8ポイント下回っています。「図形」では、2ポイント上回りました。「数と計算」に大きな課題がみられます。

■教科別成績分布から

○「国語」正答数分布グラフ【横軸：正答数／縦軸：児童数の割合】

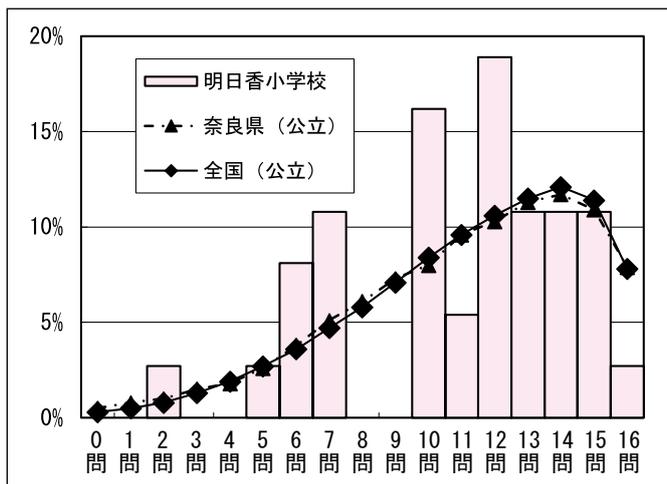


○下位層(正答数：0問～7問)の割合が31.7%(12人)です。正解が5問までの子が、8名います。

○中位層(正答数：8問～10問)となる割合は、35.1%(13人)です。

○上位層(正答数：11問以上)の割合は、33.2%(12人)です。全問正解の子は、いません。

○「算数」正答数分布グラフ【横軸：正答数／縦軸：児童数の割合】



- 下位層（正答数：0問～10問）の割合が40.5%（15人）であり、基礎学力が身につけていない子が多くいます。正解が7問までの子が、9人います。
- 中位層（正答数：11問～12問）となる割合は、24.3%（9人）です。
- 上位層（正答数：13問以上）の割合は、35.2%（13人）です。全問正解は1名です。
- 下位層への偏りと中位層が少ない二極化傾向が強くみられます。

(2) 学力調査の結果から

- 国語・算数ともに、全国及び奈良県の平均正答率を下回るという結果でした。特に、全国と比べると、国語では4ポイント、算数では2ポイント下回るという厳しい結果になります。
- 国語の「読むこと」と「書くこと」、算数の「数と計算」の結果が全国の平均正答率よりずいぶん下回ることから、基礎学力が定着していない児童が多くいるとみられます。
- 算数では、学力の下位層への偏りと二極化傾向が強いと考えられます。
- しかし、今年度の最も大きな特徴は、「無回答率の高い問題」がとても多い点です。各問題の無回答率は、前半や中ほどまではほぼ0%ですが、後半になると下記のように増えています。そのため、国語で課題の「書くこと」や算数の「数と計算」への影響も大きいようです。普段とは違う慣れないテスト形式に戸惑い、後半になると息切れをしている様子がうかがえます。このことが、今回の調査の結果に大きく影響していると考えられます。

無回答率（国語）		（%）	
問題	内容	明日香小	全国
第9問	書くこと	18.9	9.6
第11問	漢字（積）	24.3	14.4
第12問	漢字（原因）	10.8	6.6
第13問	主語・述語	16.2	3.8
第14問	修飾語	16.2	4.1

無回答率（算数）		（%）	
問題	内容	明日香小	全国
第8問	図形	8.1	4.6
第12問	データ活用	16.2	14.4
第13問	//	5.4	1.3
第15問	数と計算	2.7	2.0
第16問	//	18.9	10.3

(3) 児童質問紙（学習面）の結果から

①国語と算数ともに、多くの子が「勉強が好き」で「大切である」と答えています。

	明日香小	全国	差 (%)
国語の勉強は好きです。	65.8	58.4	+7.4
国語の勉強は大切だと思います。	97.3	93.2	+4.1
算数の勉強は好きです。	73.3	67.8	+5.5
算数の勉強は大切だと思います。	100	93.8	+6.2

②国語と算数ともに、多くの子が「授業がよく分かる」と答えています。

国語の授業の内容は、よく分かります。	92.1	84.2	+7.9
算数の授業の内容は、よく分かります。	89.5	84.6	+4.9

③国語と算数ともに、「進んで学ぼうとする姿勢」が多くの子にみられます。

国語の授業で、自分の考えを話したり質問したりしています。	81.6	63.8	+17.8
算数の問題の解き方が分からない時は、あきらめないでいろいろな方法を考えます。	89.5	82.7	+6.8

- 児童質問紙からは、子どもたちは勉強に対して積極的、主体的に学ぼうとする姿勢が見られるとともに、学習への手応えも感じているようです。(他の多くの質問でも、学習に対する肯定的な回答が全国平均を上回っています。)
- これらの点からも、学力に多くの課題があるというよりも、今回の調査では持っている力を十分発揮することができなかつたと考えることができます。

2. 聖徳中学校(3年生)

(1) 学力の実態

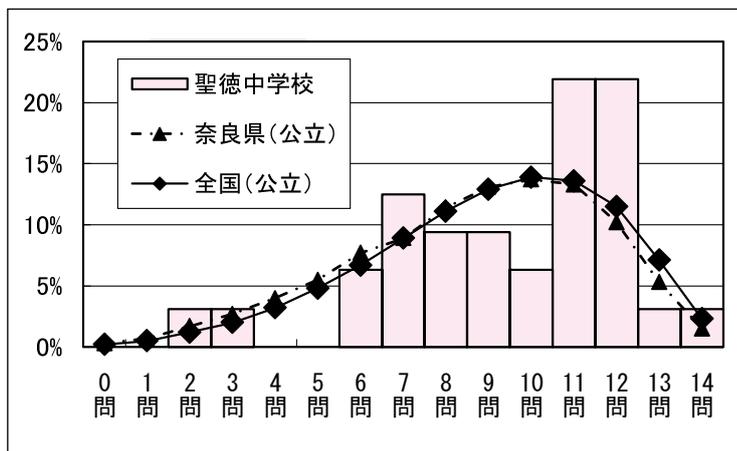
■平均正答率から (%)

	国 語			数 学		
	全体	読むこと	書くこと	全体	数と式	図形
聖徳中3年	68.0	50.8	64.6	57.5	64.4	56.3
奈良県(公立)	62.0	45.4	53.3	54.3	63.0	48.4
全国(公立)	64.6	48.5	57.1	56.9	64.9	51.4

- 国語(全体)：全国の平均正答率より、約4ポイント上回っています。
- 国語(領域)：全国の平均正答率より、「読むこと」で2ポイント「書くこと」では7ポイント上回っています。
- 数学(全体)：全国の平均正答率とほぼ同じです。
- 数学(領域)：「数と式」では、全国の平均正答率と同じです。「図形」では、全国の平均正答率より5ポイント上回っています。

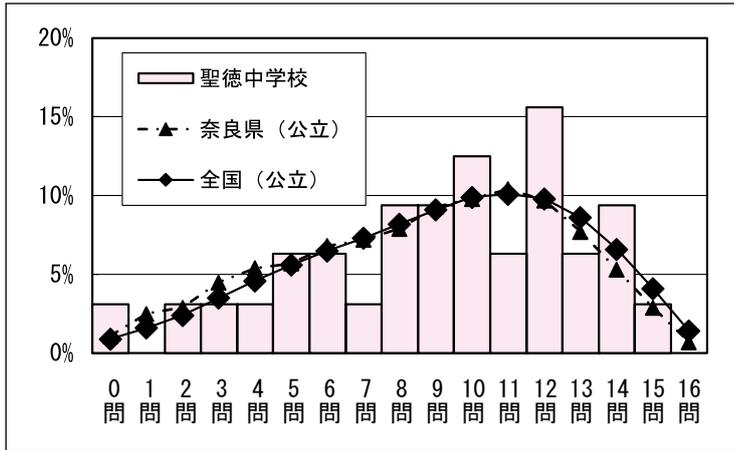
■教科別成績分布から

○「国語」正答数分布グラフ【横軸：正答数／縦軸：児童数の割合】



- 下位層(正答数：0問～8問)の割合が34.4%(11人)であり、中位層(正答数：9問～11問)37.6%(12人)、上位層(正答数：12問以上)の割合は29.2%(9人)です。
- 全問正解の生徒は1名です。
- 中位層の上位と上位層の下位の生徒が多く、さらに学力向上が期待できます。
- 下位層、特に2・3問正解の生徒が数名います。

○「数学」正答数分布グラフ【横軸：正答数／縦軸：児童数の割合】



- 下位層 (正答数：0問～7問) の割合が28.1% (9人) であり、中位層 (正答数：8問～11問) 37.6% (12人)、上位層 (正答数：12問以上) の割合は34.3% (11人) です。
- 下位層より、中位層と上位層の生徒が多い傾向です。
- 全問正解の生徒はいません。下位層、特に0問から4問正解の生徒が数名います。

(2) 学力調査の結果から

- 国語では全国の平均正答率を上回り、数学ではほぼ同じという結果です。小学校までの積み上げと中学校での成長が結果に表れており、一貫教育の成果と考えられます。
- 国語の「書くこと」が7ポイント、数学の「図形」が5ポイント全国の平均正答率より上回ったことから、確実に基礎的な力がついてきているようです。
- 無回答率は、国語・数学ともに基本的に全国と同じ傾向でした。しかし、国語は無回答率が全国と比較して低い傾向にありますが、数学は高い傾向にあります。

(3) 生徒質問紙 (学習面) の結果から

- ①全国平均と比較して、国語は「勉強が好き」で「大切である」と答えていますが、数学では少なくなっています。

	聖徳中	全国	差 (%)
国語の勉強は好きです。	68.8	60.8	+8.0
国語の勉強は大切だと思います。	93.8	91.6	+2.2
数学の勉強は好きです。	53.1	59.1	-6.0
数学の勉強は大切だと思います。	81.3	84.1	-2.8

- ②国語・数学ともに8割近くの子が「勉強がよく分かる」と答えていますが、全国と比較すると、国語は低く、数学が高い傾向にあります。

国語の授業の内容は、よく分かります。	78.2	80.1	-1.9
数学の授業の内容は、よく分かります。	78.1	74.6	+3.5

- ③積極的、主体的に学ぼうとする姿勢が見られます。

「相手の話を最後まで聞き、相手の考えを受け止め、自分の考えをしっかりと伝えています。」と答えた生徒、また、「自分の考えを深めたり、広げたりすることができています。」と答えた生徒が80%を超えています。

II 明日香の子どもの教育課題と改善に向けて

1. 今年度の調査から見えてきた成果と課題

◆学力面で、確実に力が付いてきています。

ここ数年、年度により幾分の揺れはありました。今年も、小学校として課題はみられるものの、中学校において全国の平均正答率を上回る傾向にあり、12年間をつなぐ一貫教育の成果がみられたと言えます。

○小学校6年生

国語、算数ともに、全国の平均正答率より低いという結果でした。また、国語の「書くこと」、算数の「数と計算」のように、基礎的な学力となる領域においても、低い結果となっています。

しかし、「無回答率」では後半になると急に高くなっているという結果から、テスト形式への戸惑いにより、十分力を発揮できなかったと考えられます。

○中学校3年生

国語では全国の平均正答率を大きく上回るとともに、数学ではほぼ同じという結果でした。

また、国語の「書くこと」と数学の「図形」の領域では、全国の平均正答率を大きく上回り基礎的な言語力がついていることが分かります。

◆「積極的、主体的に学習しようとする姿勢」が身につけてきました。

「勉強が好き」や「勉強は大切」と考える子が多くいます。また、「自分の考えを話したり、質問したりしています。」と答える子が、とても多くなりました。他の質問においても、子どもたちの「学ぶことへの自信」がうかがえる結果がでています。

これは、幼小中全教員が一体となり進めてきた「主体的、対話的で深い学びの授業づくり」の成果です。これからも、幼小中一貫教育を推進していきたいと思えます。

◆2極化傾向、下位層の子どもたちへの対応が急務です。

これまでも指摘されてきた2極化傾向は、今年度も明確に出ています。また、小・中学校ともに、学力としての下位層の児童・生徒が数名います。この子どもたちへの指導が大切です。

2. 継続すべき点と今後取り組むべき改善点

◆継続すべき点

- 「主体的・対話的で深い学びの授業づくり」を中心とした授業改善
- 明日香についてとらえ、提言できる力を育む「郷土学習」
- 学力の土台となる「基礎的な言語力」の育成
- グローバル化に対応した英語教育の推進

これらは、第3ステージの研究主題と一貫教育の柱として継続し取り組んできたものです。

これらの教育を通して、「15歳の自立」を目指してきました。今年度の調査結果からも、「自尊感情」や「学習・生活規律」の向上に手応えを感じることができました。特に、子どもたちが、勉強に対して積極的、主体的に学ぼうとする姿勢が見られるとともに、子どもたちは学習への自信も感じていることが調査から分かりました。今後も、幼小中一貫教育を推進していきます。

◆改善点

- 2極化傾向や低学力傾向の子への対応

これからも「一つの学校 一つの教育目標」のもと、明日香村幼小中一貫教育を推進する中で、一人一人の子どもを大切にしながら、確かな学力とたくましい心と体を育てます。